



## ボランティアバスパックで長野市へ

の堤防決壊現場から100mほどしか離れていない場所で、公民館自体も一部外壁が剥がれている等、被害の大きさを物語っていました。

団体受付を済ませ、オリエンテーション（注意事項説明）も受けて、一輪車やスコップ等必要な道具を借りて、派遣先のお宅に全員で歩いて向かいました。現地では、庭に溜まった泥を20cmほど取り除く作業と、床、壁を撤去してほぼ骨組みだけとなった家屋の泥を拭き取る作業を行いました。

堆積した泥はとて重く、スコップですくい出すのも一苦労ですが、それを一輪車に乗せて隣の集積場へ捨てに行くのがまた大変で、それでも何度も何度も往復して泥を取り除いていきました。

また、拭き取り作業も難航。小枝を集めて小さな箒を作ったり、場所によっては繰り返し拭き取りをしたり、と工夫しながら泥汚れと格闘しました。

45分間のお昼休憩を挟んで14時30分まで作業させて頂きましたが、泥との闘いは本当

⑥足場の悪いところでの拭き取り作業は難航しましたが、お役に立ちたい一心で頑張りました。⑦りんご園。堆積した泥は人力で取り除くしかなく、まだまだ多くの人手を必要としています。⑧天井まで泥に覆われた軽自動車。⑨・⑩町中に設けられた廃棄物仮置き場。一旦ここに集めたものをトラックで集積場まで運びます。



①津野サテライトの外観。②堤防決壊現場。修復が進み、鉄板で補強された仮堤防も設置されています。③・④日常生活が一変。自然の脅威を思い知らされます。⑤何度も何度も往復して、泥を運び出しました。

に果てしなく感じるほど。それでも派遣先のお宅の方へとも明るく前向きで、まるで私たちが勇気づけられるようでした。

参加して下さった方からは「日常に戻るにはまだまだ長い支援が必要だと感じました。また時間を作って活動したいと思います」「泥出しは体力が必要だと痛感しました。若い人の力をもっと欲しいです」等の声が聞かれました。

被災地の今の状況が私たちの耳目に触れる機会は日を追うごとに少なくなり、ともすれば復旧が進んでいると錯覚してしまいがちですが、現地ではまだまだ普段の生活が取り戻せておらず、多くの支援を必要としています。

私たち一人一人が出来ることは限られています。それでもまずは支援の気持ちを持つこと、それをさらに行動に移すこと、その思いや力が結果することが被災された方々の一日も早い生活再建、被災地の復興に繋がっていくと感じました。

### 長野市災害ボランティアセンター運営支援に職員を派遣しました

高森町社協では、市町村社会福祉協議会相互応援協定に基づき、10月20日より延べ20日間に亘って計7名の職員を長野市災害ボランティアセンター運営スタッフとして派遣しました。経験も土地勘もない中でしたが、被災者の方からボランティア依頼の電話を受けたり、ボランティアの方々に順に活動先に案内したり、と与えられた持ち場を一生懸命務めて参りました。



高森町社会福祉協議会

☎ 34-3717 FAX. 35-9589 ✉ t-shaso1@blue.ocn.ne.jp  
ホームページ <http://www.takamori-shakyo.com/>

お得な情報満載!

高森社協

検索

台風19号で甚大な被害を受けた地域を支援するため、11月24日(日)に「長野市災害ボランティアバスパック」を実施しました。きっかけは、「ボランティアに参加したいけれど、現地までの移動手段がない」という住民の皆さんからの声が寄せられたこと。高森町議会からも提案を頂き、高森町と高森町社協の共催という形で実現する運びとなりました。

11月13日より有線放送・チラシ・SNS・新聞等で募集を開始。募集期間が短かったこともあり、どれだけの方が応募して下さるか心配されましたが、声を掛け合っただけで一週間ほどで19名の定員に達することが出来ました。

当日は午前6時に高森町役場に集合。壬生町長に激励を頂き、男性9名、女性10名、社協職員2名の計21名で長野市に向けて出発しました。年齢も40歳代から70歳代まで、立場も様々で災害ボランティアの経験がある方もない方もいらっしゃいましたが、バスの中では全員が、「被災された皆さんのために力を届けたい」との思いを共有、長野市に近づくとつれ、その気持ちが高まっていくように感じました。

9時前に長野市長沼公民館の長野市災害ボランティアセンター津野サテライトに到着。この場所は千曲川